

第3次豊川市都市計画マスタープラン（案）の意見募集結果と市の考え方

提出された意見等の要旨、意見等に対する市の考え方は次のとおりです。

なお、単に賛否の結論だけを示した意見、第三者を誹謗中傷するもの等についてはその内容を公表せず、意見等に対する市の考え方は示しません。

項目：計画全般に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
1	コロナの影響を考慮した都市計画が大事な局面になってくることからアフターコロナ対応への都市計画開発が大切になってきます。 具体的には1.26付の日経新聞にもありましたが、1. デジタル化 2. ソーシャルディスタンスへ向けた取り組みが重要かと思われます。加えて3. 低炭素化への取り組みも重要と思います。1, 2, 3すべて伝導してくるのですが、従来のコミュニティバスに加え、JR 飯田線中心に豊橋、蒲郡など他市町村との交流に電車を利用して高め、豊川駅、牛久保駅等、駅周辺の更なる魅力度向上も必須のひとつに感じます。電子マネー活用や決済も今後推進していけると店舗、交通面も便利に計られます。 周辺事例では、名古屋市緑区 JR 南大高駅にある南生協病院が思い浮かびます。ご高齢者や出産を迎える妊婦さん、持病をお持ちの方のヘルスケア、産後のサポート、介護相談、地域イベントなど数多くの機能を持ち、病気でなくても利用できる病院施設。フィットネスクラブ、図書室、卓球台、レストラン、キッチンスタジオ、パン屋さんなど地域のたまり場とした施設になっており、各施設は分かれて造られていますのでソーシャルディスタンスも施されています。ここに至るまで2010年3月以降4年間で45回	感染症対策を考慮し本編P31、68にあるように感染症予防を見据えた災害時の避難スペースに関する位置づけを行っています。また、P56の公園などの身近な都市空間の充実も重要になると考えます。ご指摘のとおり感染症対策を見据えた都市計画のあり方は今後重要となると考えられますので、具体的な施策等を検討するに際して、十分に検討したいと考えています。 また本編P29にありますとおり豊川市はコンパクトなまちづくりを目標に掲げておりますので、ご指摘のような主要な鉄道駅周辺の魅力向上が重要となります。今後、鉄道駅周辺の魅力を向上させるため具体的な施策や施設を検討するに際しては、意見としていただきましたソーシャルディスタンスを踏まえた複合的な施設などの事例を参考とさせていただきます。

	の地域住民との会議で興しえた「場所」と聞きました。 地元東三河で例えるなら市民病院と豊橋こども未来館ここにこ、図書館、福祉施設、公民館、フィットネスクラブなどが集中したコンパクトシティ対応型の総合施設、雇用を生み、人が行き交う場となってひとつの活性化につながるアフターコロナのひとつかと感じました。そこから人口増加にもつながれば、空き家イノベーションや新築住宅の創出、既存住宅改修にもつながり脱炭素化に向けた低炭素住宅促進にもつながり業務需要にも発展できます。	
--	--	--

項目：2章全体構想に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
2	旧豊川市と旧宝飯郡の地境が、旧豊川市は発展し立派な街になって行くが、旧宝飯郡は田舎町のままです。合併して旧宝飯郡も住み良くなると思っていたが、全く変わりません。 調べると、地境は市街化調整地域になっており、建物が建てられないようになっています。旧豊川市は市民病院ができ、イオン建設の予定もあり、今まで発展しなかったところが発展して行きます。旧宝飯郡は発展できないのですか。 合併してかなり年月も経つので、地境の発展をして下さい。旧豊川市も、西高東低に街並みも変わりつつある中、街並み形成を真剣に考えて下さい。	ご指摘のとおり、豊川市をより住みやすくするためには将来の市街地のあり方を検討することが重要となります。P 38のとおり旧宝飯郡につきましても主要駅等を地域拠点と位置づけ、各拠点とその後背地の居住者の生活利便性を維持するための都市機能について市全体の都市機能の配置を踏まえながら維持・誘導を図ってまいります。 一方で、本編P 34にあるとおり人口減少が見込まれる状況下においては、一定の人口密度により支えられていた医療、福祉、公共交通、商業等のサービスが維持できない可能性があります。このような点を踏まえ、現在の市街化区域を維持しつつ人口集積をより一層高める必要があると考え、それを実現するために、P 46土地利用の方針やP 62の市街地整備の方針を定めています。 今後とも、市域全体の都市機能の配置、人口動向に考慮しつつ市街地形成を図ってまいりますので、ご理解をお願いします。

項目：3章地域別構想に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
3	八幡地区における大型商業施設誘致について、富山県高岡市の事例報告の記事がありましたが、地元商業者が欲しいのは、手厚い「補助」ではなく、自分・子供・若者たちが、希望や夢の持てる「未来」ではないのでしょうか。 地域・市民が、地元の店や商品を愛して、そこにお金を使う「地域循環型経済」の確立を目指し、八幡地区がその旗艦地区となる事を望みます。 外的大資本に頼るのではなく、時間がかかっても、市民が開発を自分ごととして考え、関われるような流れを作って頂きたいです。「SDGs テーマパーク」的な、森林公園のような環境の中に、道（街）の駅や、イベントスペース、ゲストハウス、点在于る個性的な小さな店々・カフェ、高齢者や障がいのある方・ベビーカーの子どもとゆっくり森林浴が楽しめるせせらぎのあるウォーキングコース、クラインガルテン、シェアオフィス、そして、市内の小さな店舗や地元企業、施設の情報を発信・拡散していく場。想像するだけでワクワクします。もちろん、行政から与えられたものではなく、市民・地元企業と協働によるものです。実際、市内にはそれが出来る人材や企業が多くあり、それを掘り起こして繋げていくことが、行政のすべきことではないか、と思います。 大手商業施設出店は、即効的なメリットを否定はしませんが、これからの豊川市の顔、象徴となるこの地区なのではないでしょうか。 市長が誘致推進派であることは存じておりますが、外的大型店と内的小規模・零細店の共存共栄はどのようにお考えなのではないでしょうか。イオンさんも素晴らしい企業ですので、豊田市鞍ヶ池公園のようなスケ	八幡地区はP 3 8にあるとおり医療、福祉、公共施設、商業、住宅など多様な都市機能の集積を高め、交流によるにぎわいづくりを進める地区としており、にぎわい創出においては大規模商業施設の誘致などによる交流人口の拡大や雇用の創出を図る地区としておりますので、ご理解をお願いします。 また、自然環境への配慮については今後土地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。 今回の第3次豊川市都市計画マスタープランにおいては将来都市像を「歴史・文化・自然が息づき人とまちが輝き続ける持続可能な都市（まち）」と定め、50年後も100年後も市民が希望を持ち続け、豊かに暮らし続けることができる持続可能な都市の実現を目指してまいります。 ご意見をいただきましたように、10年、100年後も、「市民に愛される」「市民が愛する」豊川市の実現を目指してまいりますのでご理解をお願いします。

	ールの大きな新しい価値の開発ができるかもしれません。今までのようなコンクリートのハコではない、自然環境に十二分配慮した夢のある計画であることを願います。 １０年、１００年後も、「市民に愛される」「市民が愛する」豊川市でありますように。	
4	第３章地域別構想について、旧４町を比較しますと居住環境の課題について、一宮は整備、音羽は維持、御津・小坂井は充実となっています。一方で、まちづくりの目標を比較しますとどの地域も魅力あるまちづくりとなっているのですが、小坂井だけは、既成市街地の居住環境の「改善」とされています。課題が御津と同じなのに対して目標では「改善」という厳しい言葉が用いられているのは何故でしょうか？ もし改善しなくてはいけない事があるようでしたらそれを課題として具体的に書いていただきたいですし、そうでないのであれば、計画なのでよりポジティブな言葉にした方が良くと思います。	ご意見を踏まえ、小坂井地域に関して、地域のまちづくりの目標②を「既成市街地の居住環境の改善、・・・」から「既成市街地の居住環境の充実、・・・」へ修正します。